

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名

徒然草 ～ 教科書に登場する人物に読んで欲しい章段1選 ～

2 単元の目標

- (1) 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。〔知識及び技能〕(3)イ
- (2) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

「徒然草」の各章段を現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、教科書に登場する人物に章段を紹介する活動。〔知識及び技能〕(3)イ

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ	①「徒然草」のものの見方や考え方に対し、自分の考えをもち知識や経験と結び付けることで、より自分の考えを広げたり深めたりしている。C(1)オ	①現代語訳や脚注などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方について積極的に知ろうとしている。 ②周りとの交流をしながら自分との共通点や、相違点について粘り強く考えようとしている。

5 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「徒然草」の各章段を「こんな人に向けて紹介したい」と相手を想像して読み、教科書に登場する人物に紹介するという言語活動を行う。情景、心情を読んでいく中でその章段を現代に置き換えた場合、現代に通じるものがあり、古典が昔のことではなく、身近にあるものであることに気付かせたい。現代との共通点や相違点を考え、場面を想像しながら読むことで、「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ」に重点を置き、「古典に親しむ」ことを目標にしている。また、考えた内容をもとに班での意見交流を行い、他者との交流会から意見をもらうことでさらに読みを深めさせたい。

教材として扱う「徒然草」は鎌倉時代末期、兼好法師が記したとされる随筆である。この作品は243段。僧の滑稽話から天皇の話、作者の日常生活に至るまで、さまざまな話が盛り込まれた、読み応えのある作品である。一つ一つの章段からは、兼好法師独自の人や自然に対する見解が感じられ、一見すると、笑い話に捉えられるような章段であっても、そこには兼好法師の社会を風刺するような鋭い視点、ものの道理を示すような言葉も見ることができ

る。教科書に掲載されている「仁和寺にある法師」も滑稽な話を真面目に語ることによって、おもしろみが倍増しており、生徒たちにも受け入れやすい教材になっている。

今回は、様々な個性を持っている教科書に登場する人物に章段を紹介するという授業を行う。教科書に載っている章段は、1 つしかないため、対象の人物に紹介する章段を選ぶことが厳しい。そのため、「徒然草ビギナーズクラシックス 日本の古典」（角川書店）を副読本として使用することで、それぞれの人物の特徴と章段を照らし合わせながら吟味して選択することができると思う。既習範囲の単元で今回章段を送る相手として挙げるのは、以下の表のとおりである。

学習学年	教材名（今回使用する人物）
1 年	シンシュン（シュンタ）、大人になれなかった弟たちに……（僕）、星の花が降るころに（私、戸部君）、少年の日の思い出（僕）
2 年	アイスプラネット（ぐうちゃん、悠くん）、盆土産（私、お父さん）、字のない葉書（お父さん、向田邦子）

今回使用する登場人物は、①心情が描かれている人物であること。②主要人物であり、生徒たちが覚えている可能性の高いもの、という 2 項目を中心に選出している。

教科書教材を使用するメリットは 2 つある。

メリット①既習範囲の教材の場合、全生徒が一度授業で学習していることである。これらの教材を扱った際には、登場人物の心情を考える活動を行っているため、登場人物の心情理解はある程度できていると考えている。今回、古典作品の登場人物は、「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる」という目標とは離れていると感じ、候補作品からは外している。また、各生徒が紹介する登場人物を決める際は、上記の登場人物から選ぶことになる。登場人物を忘れていた生徒もいるため、スライドを用いて復習を行うことで、心情の読み取りを再度行う、という手間を少しでも減らしておく対策をとる。班活動を行う前にグループ分けを行うが、こちらから人間関係や学力などを考慮して生徒たちを分ける。選んだ登場人物が出ている作品ごとに分けて、内容を忘れていた生徒に関しては、復習で使用したスライドを見ながら話し合いを行う。タブレット端末の「クラスルーム」に載せておく。今回の話し合い活動は、「なぜ、その章段を選んだのか。」等を話し合うため、ワークシート③の間⑤、⑥がつながっていれば、そもそもの心情理解の間違いについては、問わないとしている。

メリット②教科書教材を使用することで単元を 1 つで終わりとせず、つながりを感じさせることで今後の学習意欲にもつなげられることもメリットの 1 つであると考えている。話し合いの際に登場人物の心情を理解することが容易であり、グループ学習の際の発言の質向上、活性化にもつながると考えている。

各章段を読むことは、今と昔のものの考え方、感じ方の違いを味わい、読むことの楽しみをもたせていくことができる。現代文も提示することで、自分の身近な経験に置き換えることがしやすく、古典を身近なものに感じさせることができると思われる。また、「徒然草」に描かれた世界観や作者の思いを想像し、さまざまな「教訓」に触れることができる。「徒然草」の世界観や作者の考え方に対する自分の考えを広げることで古典に表れたものの見方や考え方を知るのに適している教材である。想像談を書かせることで古文と現代のつながりを感じさせ、古典に親しみを持たせたい。

（2）本単元で身に付けさせたい力

本単元では、「徒然草」の各章段で描かれている様々な教訓を読み、教科書に登場する人物に紹介するという言語活動を通して、〔知識及び技能〕の「(3)イ現代語訳や語注などを手掛

かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。」力を身に付けさせたい。「教訓」という枠を設けることで生徒たちが読む際に目的を持って読みやすくしたい。簡潔な文章でおもしろく、読みやすい章段も多いため、古典への苦手意識を少しでもなくし、次回以降の古典の授業にもつなげたい。今回は、教科書内容に加え、「徒然草ビギナーズクラシックス 日本の古典」（角川書店）を使用する。教科書内容から派生し、現代に通じることを教科書に登場する人物に沿って、考えさせることで古典に興味を持たせ、さらに考えを深めさせたい。ビギナーズクラシックスに掲載されている 73 の章段の中から教訓の載っている読みやすい 30 章段を抜粋して授業で取り扱う。「教科書に登場する人物に読んで欲しい章段 1 選」という形で文章を読み、体験談、想像談、具体例を書かせ意見交流を行うことで、徒然草を学ぶことへの興味や新たな視点が増えることを期待している。ここで言う「想像談」とは、「自分自身で考えたありそうな架空の話」としている。

授業内で 30 章段を読む時間を短縮するため帯単元として、朝読書の時間に「徒然草ビギナーズクラシックス 日本の古典」（角川書店）を読ませる。授業の際に各章段について少しでも知識を入れた状態で授業に臨ませることで授業の展開を円滑にさせるとともに、登場人物の言動や人柄から送る章段を検討する際に、選んだ 30 章段以外にも触れる生徒がいる可能性を広げたい。また、徒然草以外の古典作品も紹介し、少しでも興味を持つ生徒が出てくられることを期待したい。

6 指導と評価の計画（全 6 時間）

	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○「徒然草」冒頭の音読を行う。 ○「徒然草」の概要を知る。 ○兼好法師の人物像を知る。 ○徒然草「冒頭文」を読み取る。		
2	○「仁和寺にある法師」を音読する。 ○「仁和寺にある法師」が教科書教材のどの人物にふさわしいかを考え、何を伝え、何を読み取ることができるのか（教訓）を伝える。	〔知識・技能〕①	ワークシート
3 4	○教科書に書いてある作品の中で登場人物に伝えたい教訓の章段を選ぶ。 ○選んだ章段の現代語訳を理解する。 ○班編成を行う。 ○作ったワークシートを班の仲間と交流し、交流会を行う。	〔知識・技能〕① 〔思考力・判断力・表現力〕① 〔主体的に取り組む態度〕①	ワークシート
5	○班を変え、発表を行う。 ○振り返りを行う。	〔思考力・判断力・表現力〕① 〔主体的に取り組む態度〕②	ワークシート

7 指導計画（全 6 時間）

時	主たる学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
1	○「徒然草」冒頭の音読を行う。 ○「徒然草」の概要を知る。 ○兼好法師の人物像を知る。 ○徒然草「冒頭文」を読み取る。	・ 範読を行い、読み方の確認を行うように指示する。 ・ 歴史的仮名遣いや古典特有の言い回しなどに注意させる。	

2	○「仁和寺にある法師」を音読する。 ○「仁和寺にある法師」が何を伝え、何を読み取ることができるか（教訓）、教科書教材のどの人物にふさわしいかを考えを伝える。 ○次回、紹介する登場人物の紹介と内容の復習を行う。	・「仁和寺にある法師」を古典特有の表現やリズムに注意しながら音読し、学習シートに沿って、出来事と兼好の言葉を読み取る。 ・現代語訳や脚注などを手掛かりに内容を捉えるように促す。 ※次回以降の授業では今回やっている形で自分たちも発表スライドを作成することを伝えておく。 【失敗した理由】 ・知らない場所にもかかわらず、一人で行ったこと。 ・周りの人に確認をしなかったこと。 ・目的地を事前に確認しなかったこと。 【教訓】 「何事をするにも、そのことをよく知っている人が、必要であること。」 ・章段と人物が結びついている理由がわかっていない生徒には、確認を行う。 ・登場人物の復習をスライドで行う。 復習しておくこと ・物語の流れ ・登場人物の心情や変化 【紹介する登場人物】 (例) アイスプラネット 僕 盆土産 お父さん など	〔知識・技能〕① ワークシート ・仁和寺の法師は、なぜ、失敗をしたのか、何の教訓を伝えようしているのかを読み取れているか。
---	---	--	--

3 4 (本時)	○目的と対象を確認する。 ○自分が紹介する登場人物を決める。 ○章段を選ぶ。 選び方 ・教科書の登場人物に紹介したい内容の章段かどうか。 ○自身の担当する箇所の教訓や現代語訳を理解する。 ○各章段の内容と紹介したい理由を考え、構成メモに書く。 構成メモに書く内容 ・今回選んだ章段はどんな話だったか。(登場人物や情景、心情など) ・どんな理由でこの章段を選んだのか。(どのような成長につながるか。) ・章段のどの部分を登場人物に伝えたいのか。 ・章段と教科書の登場人物にある共通点(相違点)はどこか。 ○班を作り、構成メモに意見、質問を言い合う。 意見交流のポイント ・選んだ章段と登場人物の心情の結びつきがしっかりしているか。 ・章段のどの部分を登場人物に伝えたいのかが書かれているか。 ・章段と教科書の登場人物にある共通点(相違点)が書かれているか。 ○「徒然草」の選んだ章段について他者との交流を終えた後の自分の考えを書く。 交流会後のポイント ・上記のポイントが抑えられているかを確認する。 ○良いものがあれば紹介する。	・目的：徒然草を使って少しでもその登場人物の成長、助けにつなげる教訓を教える。 ・対象：教科書に登場する人物。 ・章段は事前に抜粋しておく。抜粋の際の基準は以下の通り。 ①教訓につながる内容になっている章段であること。 ②内容がわかりやすいもの。 ・各章段の現代語訳が分かっていない生徒に対しては内容の補足を行うなど助言する。 ・構成メモが進んでいない生徒に対してはあらすじなどを書くように促す。 ・発表班はこちらで人間関係、学力を考慮した班を編成する。できるだけ同じ章段を選んだ生徒がいるように編成する。 ・意見交流のポイントを伝える。 ・他の人の考えやまとめ方を見て、新たに気付いたことや考えたことがあればメモをとるように促す。 ・他者との意見交流を行い、意見が変わることは良いことであることを伝える。	[知識・技能] ① ワークシート ・本文の内容から経験談等を考えているか。 [主体的に取り組む態度] ① ワークシート ・現代語訳や脚注などを手掛かりに作品を読み、体験、想像談、具体例について考えようとしているか。 [思考・判断・表現] ① ・他者との意見交流を終えて、ものの見方や考え方に対し、自分の考えをもち知識や経験と結び付けることで、より自分の考えを広げたり深めたりしているか。[主体的に取り組む態度] ① ・周りとの交流をしながら自分との共通点や、相違点について粘り強く考えようとしているか。
-------------------------------	---	---	---

5	○振り返りを行う。 振り返りのポイント ・他の人が紹介した人物、章段を見て自分なら何の章段を紹介していたか。 ・今後、自分が選んだ章段を他の人に章段するならどういう人に知って欲しいか。	・実際にどういう人物に送ることができるかを考えさせる。	〔知識・技能〕① ワークシート ・本文の内容から経験談等を考えているか。 〔思考・判断・表現〕 ① ・他者との意見交流を終えて、ものの見方や考え方に対し、自分の考えをもち知識や経験と結び付けることで、より自分の考えを広げたり深めたりしているか。
---	--	---	--

8 本時の計画（4/5時間目）

(1) 本時の目標

- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。

〔知識及び技能〕(3)イ

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (2分)	○本時までの学習の流れを確認する。 ○本時の学習課題を確認する。	○これまでの学習の流れを確認する。 ○必要であれば班の確認を行う。	
	自分が選んだ章段と教科書の登場人物の結びつきや紹介したい理由が適切かを考えよう。		
展開① (10分)	○各章段の内容、構成メモを確認する。 構成メモに書く内容 ・今回選んだ章段はどんな話だったか。(登場人物や情景、心情など) ・どんな理由でこの章段を選んだのか。(どのような成長につながるか。) ・章段のどの部分を登場人物に伝えたいのか。 ・章段と教科書の登場人物にある共通点(相違点)はどこか。	・各章段の現代語訳がわかっていない生徒に対しては助言する。 ・構成メモが進んでいない生徒に対しては体験を想像談として書くように促す。 ・発表班はこちらで人間関係、学力を考慮した班を編成する。できるだけ同じ章段を選んだ生徒を編成する。	〔主体的に取り組む態度〕 ワークシート、観察 ・積極的に周りとの交流を図り、自分との共通点や、相違点について粘り強く考えようとしているか。

展開② (25分)	○班で分かれて構成メモに書いたことについて発表を行う。 交流会の流れ ○発表者が以下の順番で話す。 ①選んだ章段と登場人物がどれか。 ②登場人物に実際に紹介するように話し始める。 ○聞いていた人たちが以下の点を中心に意見を話す。 ・選んだ章段と登場人物の心情の結びつきがしっかりしているか。 ・章段のどの部分を登場人物に伝えたいのかが書かれているか。 ・章段と教科書の登場人物にある共通点（相違点）が書かれているか。 ・「③どんな理由で章段を選んだのか」の部分が人物の成長や人物の助けになっているか。 ○各、発表のあと、自分がこの章段をどう捉えたのかは全員で一言ずつ確認を行う。	・4人班で行う。 ・1人5分×4人（3人）。 ・各発表後、感想を書く時間、意見交換時間を作る。 ・交流会の流れを確認する。 ・感想のポイントを伝える。 ・他の人の考えやまとめ方を見て、新たに気付いたことや考えたことがあればメモをとるように促す。 ・構成メモが書けていない生徒に対しては意見交換時間」の中で章段や理由を固められるようにアドバイスを行う。 ・結びつきなどの話し合いのポイントは「仁和寺にある法師」と「無能の脳」を再度提示し、共通点や相違点がつながっているかを確認させる。 ・再度私は「～というようにこの章段を捉えている」という形で確認させる。	〔知識・技能〕 ワークシート、観察 ・徒然草の章段を現代語訳や語注などを手掛かりに読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っているか。
展開② (10分)	○交流会を終えて変更したい点や追加したい点を付け加え、書きかえる。新たな考え方が出た生徒についてもワークシートに書く。	・他者との意見交流を行い、意見が変わることは良いことであることを伝える。 ・書きかえる前の文章を残しておくように促す。	〔思考・判断・表現〕 ・他者との意見交流を終えて、ものの見方や考え方に対し、自分の考えをもち知識や経験と結び付けることで、より自分の考えを広げたり深めたりしているか。
まとめ (3分)	○次回、振り返りを個人で行うことを伝える。		